

# 第2回噴火湾ホタテガイ情報(2019年) 発行日:令和元年6月7日

発行:函館水産試験場, 栽培水産試験場 協力:胆振, 渡島北部, 渡島地区水産技術普及指導所

## 全湾でホタテ浮遊幼生が多数出現, 採苗器への付着も始まる。

### 渦形成により付着増加が見込まれる。

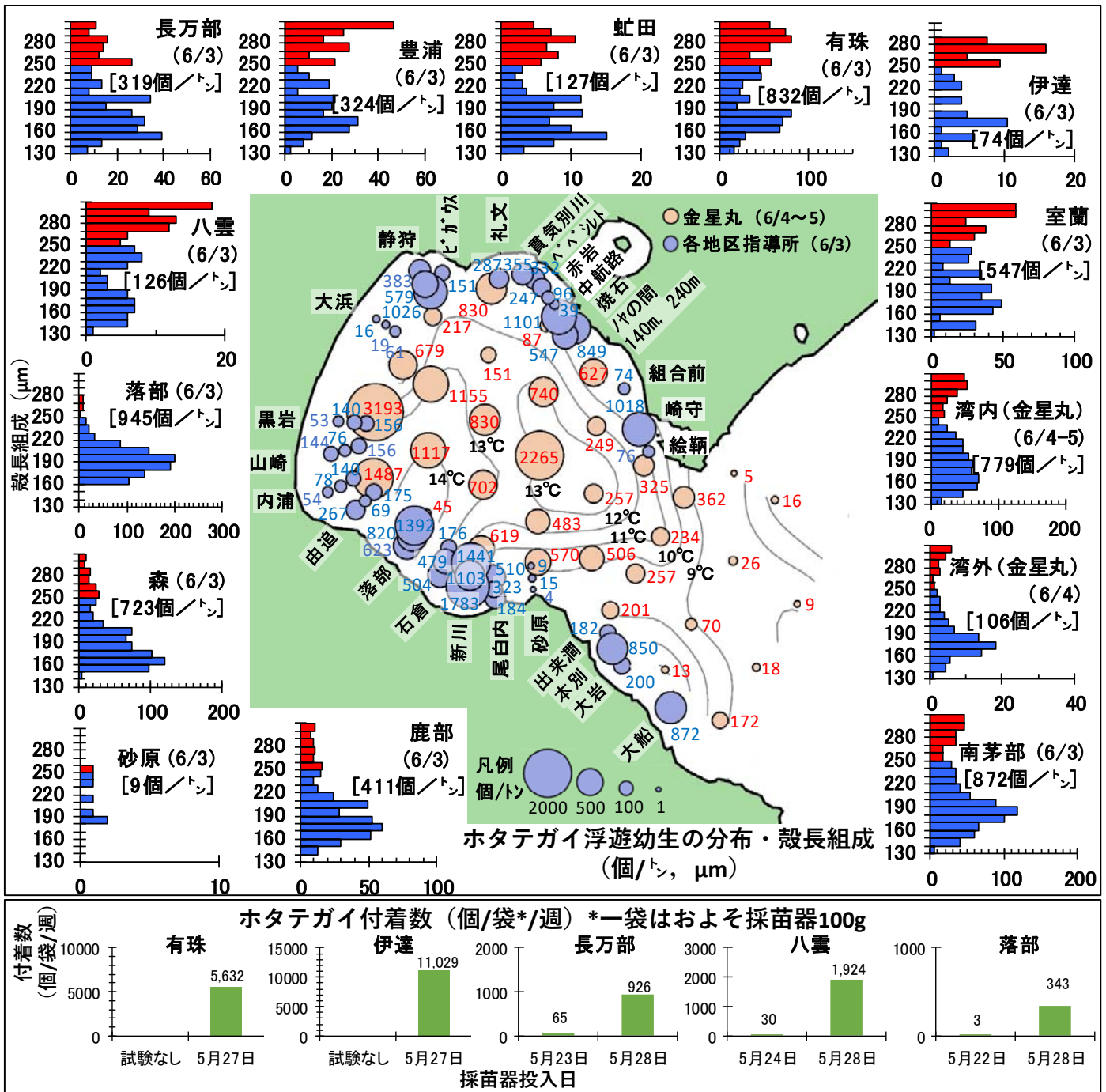


図1 ホタテガイ浮遊幼生分布密度(○印, 個体数/ト), 10m 深水温(灰色線)の水平分布, 各地区のホタテガイ浮遊幼生のサイズ組成および各地区漁協・指導所による試験採苗器のホタテガイ付着状況。浮遊幼生のサイズ組成では 250 μm 以上の付着間近の階級を赤色で示しました。

(連絡先:函館水産試験場 西田・渡野邊・金森・夏池 TEL:0138-83-2893)

この情報は函館水試ホームページからもご覧いただけます。

<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/section/zoushoku/tpc05300000081x.html>

※本調査および情報配信は北海道ほたて漁業振興協会からの委託研究により実施しています。

【浮遊幼生出現状況と各地区の付着状況】

ホタテガイ浮遊幼生は湾内沿岸から沖合で広範囲に多数出現しています。各地区漁協・指導所が投入している試験採苗器には、5月27、28日からの1週間で網地100gあたり3百~1万個体のホタテガイが付着しており、胆振側で付着数が5千を超えています。胆振側から湾奥側で付着間近の殻長250μmを超えるホタテ浮遊幼生が出現していますが、殻長250μm以下の小型の浮遊幼生も多数出現しているため、今後も採苗器への付着数の増加が見込まれます。

【環境情報】

湾内の海面水温は、気温の上昇に伴い、13~14℃と5月(6~9℃)と比較して大きく上昇しました(図1, 2)。一方、湾内の40m以深には平年よりも冷たい3℃以下の冷水が存在し、深度10~40mに顕著な水温躍層が発達しています(図2)。

湾内には時計周りの渦が形成されていることから(図3)、ラーバの一部は湾外に流出しますが、大部分は湾内の広範囲に滞留すると考えられます。今後、順調に採苗が進むことが期待されます。

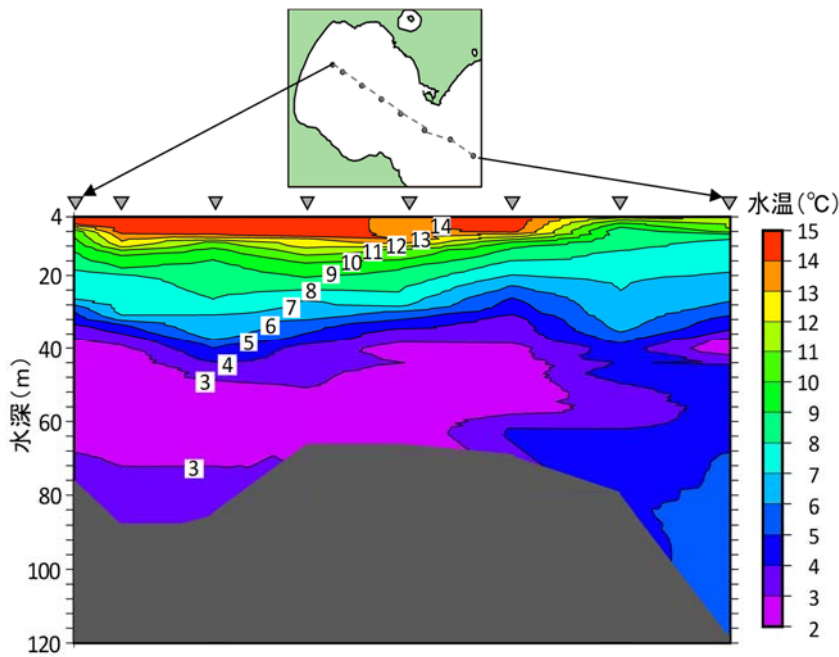


図2 噴火湾縦断面(長万部沖から湾外)の水温分布

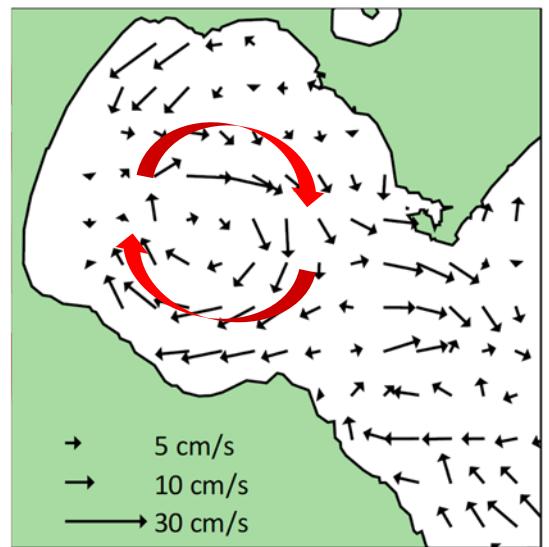


図3 深度10mにおける流速ベクトルの水平分布